



# MONITOUCH

## テクニカルインフォメーション

2013年8月19日

テーマ	Vシリーズのタッチスイッチ仕様について		
該当機種	V8、V7、V6シリーズ	No. TI-M-0070	1/3

### 1. タッチスイッチの種類

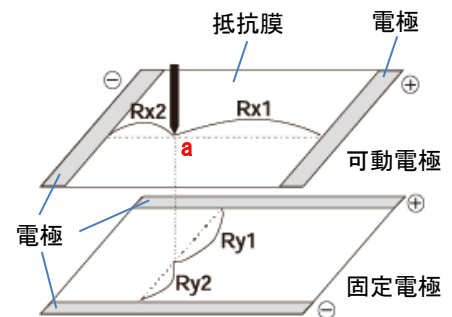
Vシリーズのタッチスイッチにはアナログ型抵抗膜式（アナログスイッチ）とデジタル型抵抗膜式（マトリクススイッチ）の2種類があります。それぞれの動作原理は以下のとおりです。

#### 《アナログ型抵抗膜式》

固定電極の電極間に電圧を印加すると、電極間に電位勾配が発生します。この時、入力位置の電圧を可動電極で読み取り、コントローラーで処理をしてX軸の位置計算をします。

次に、可動電極の電極間に電圧を印加し、固定電極で電圧を読み取り、Y軸の位置計算をします。

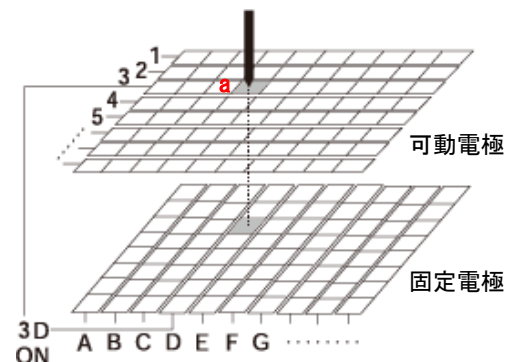
入力位置 a をディスプレイ上に表示します。



#### 《デジタル型抵抗膜式》

短冊状の可動電極と固定電極を直交するように貼り合わせてマトリクス回路を作ります。

端子から ON 信号を取り出して、入力位置 a を読み取ります。



### 2. Vシリーズの型式表記

Vシリーズの型式の末尾に“M”が付くタイプがマトリクススイッチ仕様です。\*

本資料をご理解の上、ご使用の目的に合わせて、型式を選定してください。

例:V8シリーズ型式

V8 □ □ □ □ □ □

タッチスイッチ仕様 なし：アナログスイッチ M：マトリクススイッチ
---

\* 型式について、詳しくはカタログまたは各シリーズの『ハード仕様書』をご参照ください。

### 3. V-SFT の設定

V-SFT の[システム設定]→[編集機種選択]→[タッチスイッチ]で「アナログスイッチ」または「マトリクススイッチ」を選択します。ご使用のVシリーズのタッチスイッチ仕様に合わせて、設定してください。

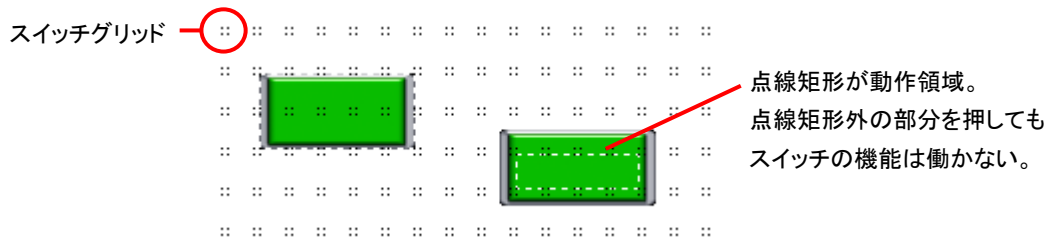
## 4. Vシリーズの機能

Vシリーズのタッチスイッチ仕様によって、スイッチやその他機能に制限があります。

### 4-1. スイッチ

#### スイッチの配置

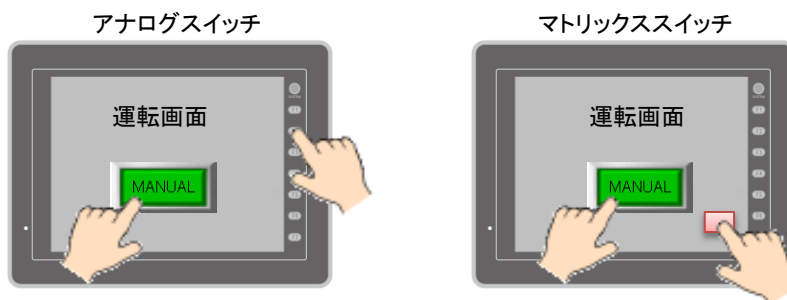
- アナログスイッチ  
1ドット単位で自由な位置にスイッチの配置ができます。スイッチの拡大/縮小も1ドット単位で行えます。スイッチの最小単位は、2ドット(横)×2ドット(縦)です。ただし、安全上、14ドット(横)×18ドット(縦)以上を推奨します。
- マトリックススイッチ  
スイッチグリッドが決まっているため、自由な位置にスイッチを配置することができません。スイッチの拡大/縮小もスイッチグリッドに沿って行います。スイッチを配置する前に、必ず[表示]→[グリッド]→[グリッド設定]→[スイッチの配置をスイッチグリッドで行う]のチェックを入れて配置してください。チェックを外して配置すると、動作領域がずれてスイッチの機能が働かなくなります。スイッチの最小単位は、14ドット(横)×18ドット(縦)です。



スイッチ分解能	アナログスイッチ	全シリーズ	1024(横)×1024(縦)
	マトリックス スイッチ	V812、V712、V612	50(横)×30(縦)
		V810、V710、V610	40(横)×24(縦)
		V706、V606	20(横)×12(縦)

#### スイッチの出力

- アナログスイッチ  
スクリーン上のスイッチを2点押しすることはできません。2点押しする場合は、スクリーン上のスイッチとファンクションスイッチ（[F1]～[F7]、5.7インチタイプは[F1]～[F5]）を使用してください。
- マトリックススイッチ  
スクリーン上のスイッチを2点押しすることができます。



\* スクリーン上のスイッチを2点押しする場合、V-SFTの[画面設定]→[スクリーン設定]→「スイッチ出力」を「2出力」にします。

**4-2. その他の機能**

以下の機能は、マトリックススイッチ仕様の本体では使用できません。

メモ帳、スライダースイッチ、スクロールスイッチ、リモートデスクトップ、スイッチ座標出力 (\$s900、\$s901、\$s902)